

普及だより

第148号

発行

八重山農林水産振興センター
農業改良普及課沖縄県石垣市真栄里438-1
Tel 0980-82-3497 Fax 82-4142

与那国駐在

Tel 0980-87-2354(代)

八重山から 農業士等 4名 認定!



前列左から平井氏、池村氏、當銘氏、宮良氏。

那覇市で開催予定であった「令和元年度沖縄県農業士等認定式」が台風の影響で中止となり、八重山地区で農業士等認定式を開催しました。

八重山地区から青年農業士2名、指導農業士1名、女性農業士1名が誕生し、青年農業士5名、指導農業士23名、女性農業士9名、計37名となりました。

認定式後は、新農業士と八重山地区農業士等連絡協議会会員で交流を深めました。



平井 伯享氏
(青年農業士)
(竹富町西表島:
果樹)

2012年からパインアップル、マンゴー栽培を開始。2016年より西表島農業青年クラブに所属し、マンゴーの積算温度を活用した研究と実践についてのプロジェクト発表は沖縄県農業青年会議で最優秀賞、九州沖縄地区農業青年会議で優秀賞を受賞した。



池村 一輝氏
(青年農業士)
(竹富町西表島:
果樹)

2011年よりパインアップル、マンゴー栽培を開始。2011年から八重山マンゴー研究会に所属し、本研究会の品評会で2回優勝をするなど栽培技術は高度である。

エコファーマー認定、赤土流出防止等、環境保全型農業の実践に力を入れている。



宮良 妙子氏
(女性農業士)
(石垣市:
肉用牛繁殖)

1986年就農。2004年に家族経営協定を締結し、家族の役割分担を明確にし、子供達と共に農業経営に取り組んできた。内閣府政策懇談会に出席し、特に女性名義の農地関係の問題を積極的に提言。大学生、JICA 関係の農業体験を受け入れるなど、国内外へ農業理解者を広める取り組みをしている。現在は、石垣島和牛改良組合女性部の部長として組織運営に尽力している。



當銘 悟氏
(指導農業士)
(石垣市:
さとうきび)

2002年就農。八重山地域では数少ないさとうきび専作農家で、大型機械を駆使した農業を実践している。

2010年に青年農業士に認定され、新規就農講座での講師を務めるなど、担い手の育成にも尽力している。また、地区、県内外の農業者、生産法人の現地視察や機械化栽培体系の視察等を積極的に受け入れている。

(担当:舞木)



カボチャ栽培の季節です！

～病害虫・風対策、きちんと準備しましょう～



定植準備

- ・高畝で排水対策
- ・植付前に深耕を行う
- ・マルチの利用
(肥料流亡防止& 雑草管理の省力化)
- ・敷草は株元まで
(土はね防止で病害リスク減)



季節風対策

果実の肥大

- ・着果後、**20日間が果実肥大の勝負!!**特に、肥大期には十分な灌水&追肥を行うこと！
- ・ソフトボールの大きさになったらカボチャシートを敷く。
- ・日焼け防止で品質向上！



ウイルス病対策

- ・防風ネット、ソルゴーで圃場を囲む

- ・周辺露地のウリ科野菜(植物)を除去する

- ・うどんこ病、褐斑細菌病は**硫黄粉剤**や**Zボルドー**で**予防散布の徹底を!** →下葉の枯れ上がり防止

病害虫対策

(担当:我那覇)



令和元年度土壌検診週間における土壌分析結果について

本年度の土壌検診週間における分析点数は、八重山地区で計408点(石垣市291点、竹富町115点、与那国町2点) 作物別では、さとうきび110点、牧草10点、野菜97点、果樹154点、カンショ27点、その他10点でした。本年度の結果より、八重山地域の土壌の傾向として、EC(塩基)については特に施設野菜で蓄積が散見されました。分析結果にて蓄積が確認された方は、これを機に肥料設計の見直しを行いましょう。

(担当:我那覇、大前)

【牧草地の簡易更新機について】

本県の牧草地は、造成から10年以上経過した所も多く、経年劣化による雑草侵入、収量低下などの課題があげられます。草地の維持管理の為に草地更新が必要となりますが、県全体での取組事例は多くありません。そこで今回は、当地域で実践している牧草地の更新技術について紹介します。



【改良型リッパー】

サブソイラを参考に改良したリッパーで表土を作溝・播種し、植生の改善を図る。除草剤により侵入した雑草を防除した後に行うと良い。



【改良型ロータリ】

ロータリの刃を「L字」から「I字」に改良して表土を作溝・播種し、植生の改善を図る。除草剤により侵入した雑草を防除した後に行うと良い。



【サブソイラ】

深度30~40cmを作溝し、ある程度の草地土壌の物理性・透水性を改善する。更新後は追播を行うとさらに良い。



【改良型ブルドーザ】

深度30cm程度の土壌を破碎し、物理性・透水性を改善する。更新後は追播・鎮圧を行う。
(担当: 本田)

かんしょの苗畑設置について！ ～良質な苗作りが反収向上につながります～

かんしょは、苗半作です。高品質なイモを多く生産するため、良い苗を作りましょう。

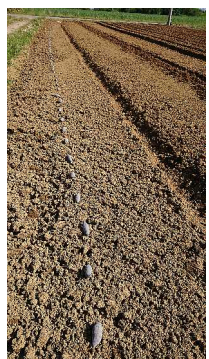
- ①種イモは品種の特徴がよく出ているイモ（80~100g）で、病害、腐敗や傷の無いイモを選びます。
- ②ベンレート水和剤等で種イモ重の0.4%量をイモ表面に粉衣することで、イモの腐敗が抑制され、萌芽率が向上します。
- ③苗床の面積は、本畑の1/10程度必要です。畦幅は1.0~1.5m（平畦）、条間30~50cm、株間40~50cmとします。芽は頂部に多く発生するので、同じ方向に並べます。覆土は、種イモが隠れる2~3cm程度でよく、萌芽後は、イモ配合肥料を8~13g/株で株基に施肥します。種イモ伏せ込み時期は10~11月上旬頃が適しています。
- ③採苗は、苗長が25~30cmで節数が6~8節の苗を選び、採苗した苗は下記表の農薬で浸漬処理後に植えましょう。
- ④採苗後は、液肥で追肥を行うと、3~5回繰り返して、採苗することができます。



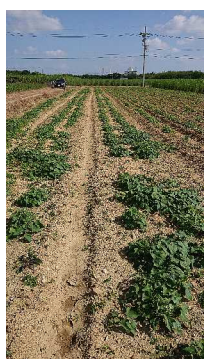
品種の特徴がよく出ているイモ



ベンレート水和剤で粉衣した種イモ



種イモの配置状況



種イモの萌芽状況
(11月伏せ込み3ヶ月後)

農薬の名称	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
トップジンM水和剤	500~1000倍	20~30分間苗茎部浸漬	植付前	1回
ベンレートT水和剤	20倍	1分間苗茎部浸漬	植付前	1回
	200倍	30分間苗茎部浸漬		
ベンレート水和剤	500~1000倍	20~30分間苗茎部浸漬	植付前	1回

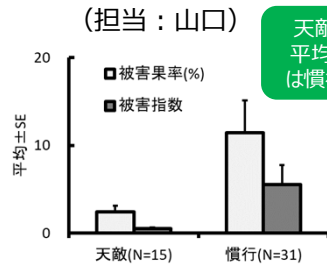
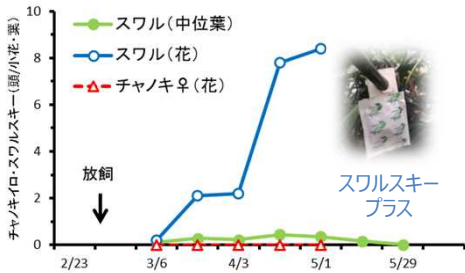
*農薬の登録には最新の情報を確認してください。

(担当: 大城)

マンゴー栽培における天敵導入の注意点

多くの害虫類で薬剤抵抗性が顕在化し、八重山地域でも天敵を利用した病虫害防除が広がりを見せています。成功すれば防除労力を大きく軽減できますが、生きものを利用する防除は従来の薬剤散布とは違う気遣いも必要です。マンゴー園地でのスワルスキーカブリダニ（商品名：スワルスキープラス、スワルバンカー等）利用にあたっては、以下の点に注意しましょう。

- 天敵は速効性ではなく害虫をゆっくり長期間抑えるもの。
放飼前に害虫密度を可能な限り低くする必要があります。
- 天敵放飼前後は使用できる農薬に限られます。数ヶ月前の農薬が悪影響を与えることもあるので、初めて利用する方は必ず事前に普及課や農薬会社にご相談下さい。また農薬使用履歴は必ず記録しましょう。
- 天敵は注文販売です。ビニール被覆後の導入が原則なので**1週間以上前に注文し、到着後はすぐに放飼しましょう。**
- 放飼した天敵を維持・増殖するため、ハウスの温度管理はこまめに行い、**害虫と天敵をよく観察しましょう。**



天敵利用はの平均被害果率は慣行の約1/4

←H30年度調査研究より 天敵・害虫の発生推移と被害果率

ツマジロクサヨトウの発生に注意しましょう！

石垣市でのツマジロクサヨトウの発生の経緯

- ①令和元年7月3日に鹿児島県でツマジロクサヨトウの発生が飼料用トウモロコシにて日本国内で初確認され、以後関東・福島県以南18県で確認されています（沖縄県：恩納村、宮古島市、多良間村）。
- ②8月29日に沖縄県防除技術センター八重山駐在の定期調査により、さとうきびの新植夏植圃場で本害虫が初確認され、9月2日にはソルゴー（緑肥用）で本害虫の発生が初確認されました。

本害虫の特徴

- ①中米・ニカラグアの調査では、本種による肥大期から熟期のトウモロコシへの加害が55～100%である場合、収量が15～73%低下するという報告があります。
- ②本種は、幼虫が新葉の葉鞘部や若い子実を食害します。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在します。
- ③本害虫は飛翔能力が高く、気流によって長距離移動します。

本害虫の対策

- ①さとうきびやソルゴー、トウモロコシなどで本害虫の被害と思われる食害が確認された場合、病虫害防除技術センターもしくは農業改良普及課までご連絡ください。
- ②農薬等による防除対策はあります。上記機関が対処策を提示します。
- ③早期発見が本害虫防除のキーポイントになりますので、ご協力をお願いします。



ツマジロクサヨトウの成虫 ツマジロクサヨトウ若齢幼虫のソルゴー茎内での生育の様子

(担当:大城)